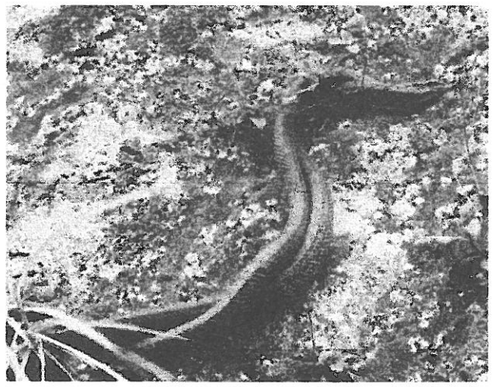
編集後記・・・３０年後の地域を考えるに際して時代背景はどうなっているだろうか、その時既に彼岸にいる私が想像してみました。
先ず少子高齢化は引き続き進んでおり、日本の人口は２割程度減少し１億人を割っている。高齢化率は３５％を超えている（つまり３人に１人以上が 65 歳以上)。慢性的な人手不足。年金は大幅に減少、代わりに子育て給付が増加。平均寿命は更に男女とも数年増加。
その結果どうなっているか。今高齢者といわれる年代層はマイナーではなくメジャーな存在となっている。高齢者とみなされる人は、８０歳以上程度に引き上げられている。メジャーな存在となった人たちは、自律的であれ他律的であれ社会の再生産サイクルの中に入っている。つまりは健康である限り、何らかの形で社会参加していることです。
その際の課題は何か。先ずはマイナーからメジャーに変わったという人々の意識改革、そしてメジャーに変わった人々を受け入れる社会システムを創ることでしょう。

事務局長　鈴木為之（tame_yuki@ybb.ne.jp）

◇

トピックス２題

夏は命が躍動する季節、自然が豊かに残る久木小学校区ならではの、動物たちの夏の営みを二つ紹介しましょう。



２匹の蛇・・・当会代表の田倉さんが、私の家に飛び込んできました。坂を上っていたら崖から長い長い大きな蛇が「どさっ」と音を立てて落ちて来たそうです。珍しいので（或いは驚きあわてて）私に声をかけてくれたのです。
よく見ると長さ２メートルほどの青大将が、２匹絡みついてもつれている姿でした。蛇は絡み合いながら顔を合わせてお互いに微笑んでいる様子、見物人を意に介せずまたゆっくりと崖を上がり始めましたが、また落ちてしまいました。翌日その片割れと思われる青大将が、悠々とわたくしの家の庭を散歩していました。
嘗ての隙間のある家屋には、「同じ屋根の下」に住み着いて、人と共生しながらネズミを捕ってくれていた蛇です。　　６月３０日撮影。

最強の暗殺者・シオヤアブ・・・日本の昆虫界で最強の暗殺者といわれるシオヤアブ。飛んでくる昆虫を背後から襲い、正確に針の一刺しで急所を一撃して殺し、体液を吸います。
あのオオスズメバチもオニヤンマも餌食にするといいます。この写真はバラの花の上でカメムシをとらえて体液を吸っているところです。　　７月６日撮影。

（鈴木為之　山の根在住）

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協 ひろば

第４号　（準備会から通算第２５号）
発行日　平成２９年８月５日
発行所　逗子市久木２－１－１
久木小学校区住民自治協議会
発行人　田倉　由男

・・◆第１４回 福祉教育セミナー　開催　◆・・
～３０年後の地域を描く～

８月１８日（金）　１０：００～１６：３０　市民交流センター

第３回住民協役員会

７月１日（土）１３：３０～１４：４５分・久木会館で、２５名（うち役員１２名）が参加して開催されました。主とした審議内容は次の通りです。

①　新会員の件・・・高野毅様（久木５丁目）から新たに入会申し込みがあり、審議の結果承認されました。会員数は６３名となりました。
又入会申込の手続きを次のように決めました。
【＊入会申込；所定の入会申込書に記入の上、事務局まで提出
＊審議；最も早い役員会で審議
＊確認；審議の結果を入会確認書（新たに設定）で本人へ連絡
＊会員名簿；会員名簿の改定は半期ごと程度で行う。】

②　部会活動に関する件・・・ふれあい部会、減災部会、拠点部会から６月３日に初めて行った部会会合の話し合い内容について報告がありました。その内容は、「住民協ひろば第３号」に記載されていますので参照ください。尚、今後活動内奥は記録として残すとともに、各月の活動を住民協ひろばに要旨で掲載することとしました。

③　全戸配布広報誌編集の件・・・東会員より改訂案の提示があり、全体構成・デザイン案等主な点は了承されました。又完成を９月中旬とすることに決まりました。今後、次回役員会までに、空欄（会長巻頭言、住民からの寄稿、部会紹介欄等）を埋めること、広告依頼については別途協議（別途協議の結果、依頼先、活動期間等決定）することとなりました。

役員会からのお知らせ

①　鹿沼市自治会連合会役員研修に協力する件・・・７月２７日行われる首題の研修に、久小校区住民協の活動を参考事例として取り上げたい旨、市から要請があり、引き受けることとなりました。
研修の主内容は、交付金に関すること、及び住民協の活動に関することの２点です。

②　キエーロ活用促進の件・・・資源循環課・土屋係長、商工会・桐ケ谷会長が来場され説明がありました。キエーロは土中バクテリアの分解力を活用した生ごみ処理機で、殆どの食材・残飯が処理できます。市と商工会が協定して、定価の（４分の３を市が助成、）４分の１（￥６２００～６７００）を支払えば購入できるようになりました。出張説明を行うので、自治会・町内会等で活用してください

情報提供　バスの遅延問題

ハイランド在住の、鈴木嘉一様、石川禎祐様から、ハイランド～ＪＲ逗子間のバス運行状況に関して情報提供がありました。遅れは全体に定常的現象となっているようです。報告者所感によると、＊土曜日（特に夏季）は特にひどい、＊ネックとなる場所（新逗子Ｔ字路、池田踏切、久木５丁目Ｔ字路）

＊朝通勤時利用者の活用状況は改めて調査の要あり

＊踏切の問題はＪＲと改めて定量的分析の共同作業必須

一つの対策として、池田踏切の久木側付近に停留場を設置し駅への利便を図る、との話もありました。本件に関し、市でも以前から問題を認識しており、種々の折衝の経過の報告が同席した大沢地域担当（環境都市課）からありました。

部会報告

７月１日・１４：５０～１５：４０、ふれあい部会を除く３部会で会合がありました。又ふれあい部会は７月８日・１０：００～１２：００部会を開催しました。話し合いの要旨を報告します。

---

①　子ども部会：報告者　東浩司

参加人数４人。子ども部会の初会合は、少人数ながら中身の濃い話し合いができました。まず部会長の東から、地域の子育ては、小学校を中心に様々な施設や団体が連携する仕組みができていると解説しました。乳幼児の子育ては地域とつながっていないケースがありますが、就学前に親が地域にかかわっていると、子どもが小学校に入ってからPTAなどに入るハードルが低くなります。また、子ども会など既存組織があるなかで、「住民教の子ども部会は何をすべきか、どうあるべきか」について議論しました。アイデアとして「住民自治をしたい！という子どもを育てる」という目標が出ました。そのためにも、子どもたちに自治について関心をもってもらうことが大切です。そこで、子ども向け広報誌をつくる案が出ました。

他に、月に一回程度、久木会館で子育て世代の集まりを企画し、勉強会や食事会などを催すプランなど話し合いました。

---

②　減災部会：報告者　鈴木為之

参加者７名。三つの自治会・町内会から活動の現状について発表がありました。

山の根親交会（山下様）；防災部として内部に６班編成。毎月の機材点検、毎年の防災訓練・避難路体験等実施。市避難行動要支援者支援制度の取り組みを始めている。

課題は、担当人材の掘り起こしと確保、いつも同じ顔ぶれとなってしまう。避難所へのアプローチが県道金沢・六浦線経由、且つ遠方であり、交通状況及び立地面で問題を残す。

久木連合町内会（坐間様）；八つの町内会のリーダーが集まって毎月課題の検討を実施している。山の根自治会の防災幹部指針を参考にして同様のものを作成したり、神社社務所を本部にして在宅避難者対策等立案しているが未だ私案の域で連合町内会で共有されるまでには至っていない。幹線道路が通れなくなった場合の避難路整備も急務と考えている。参加者が少ないのが共通した課題である。

山の根自治会（金子様）；年間予定表、防災幹部指針（27･12･1）組織図に基づいて説明があった。市避難行動要支援者支援制度の取組が課題である。

森戸様（久木地区民生委員児童委員）；約10年前に作成した防災地図を、今日的に作り直したらどうか。作るにあたっては現場を確認したうえで、画一的な安全・危険の判断ではなく現場的な判断を加えること、災害の種別の対応を考えておくべきではないか。

其の他；避難所訓練対応については時間切れで未着手となりました。

---

③　拠点部会：報告者　小林寿志

・久木会館にサロンの雰囲気を作り、誰でも来やすくする。 そのためにはいつでも気楽に飲めるコーヒーメーカーを 設置してはどうかとの案が出たが、機械の維持管理が 大変との意見も出たので、ドリンクメーカーに維持管理の 件について簡単にできないか問い合わせをすることとした。

・本年度で久木連合町内会が行ってきた久木会館の指定管理者契約が終了する。平成30年度以降の久木会館の 指定管理制度としての市の 考え方を伺った。

「久木小学校区住民自治協議会が発足し、久木会館も 住民自治の拠点となり、また従来の久木地区の活動センターとしての機能も続けていく。そのためには、平成 30 年度からは、住民自治協議会と久木会館の指定管理者 として契約し、実質の運営は 4 年間の実績がある久木連合 町内会が行うのが最良と考えている。また久木会館を コミュニティーセンター化する構想も市として検討はしているが まだ結論は出ていない。」

---

④　ふれあい部会：報告者　龍村敦子

通常第一土曜日２時半からの部会集会を８日に単独開催。10 時から 11 時 45 分とまとまった時間の会合となりました。出席者 11 名（1 名は西部包括支援センター斎藤さん）。高齢者を取り巻く現状に意識を向けた後、今後のふれあい部会の方向性の意見交換に入りました。「互近助」の細やかな活動に対しても「ふれあい部会」が支援することが大切であるという意見も出されました。今後のふれあい部会の活動にはこのお互いの共通認識が大切です。同じ板の上に乗るのと乗らないのとでは各自治会町内会の活動の細やかさと住民協としてのダイナミックな展開がうまくからんでいかないかもしれないからです。

第１４回福祉教育セミナー開催

“３０年後の地域を描く”というテーマで、恒例の福祉教育セミナーが開催されます。

３０年というと、歴史にとっては一瞬の時間ですが、個人にとっては大変化する３０年であることは振り返ってみるとよくわかります。

ところが今、社会が大きく変革する時代といわれるように、これからの３０年の社会の変化には、個人の生き方に、地域の在り方に大きな変化をもたらすインパクトがあるのではないかと考えています。

今を生きる私たちが、３０年後を生きる人たちのために考えておくことは、大変意義のあることではないかと思います。出席してみんなで考えましょう。

日時；8 月 18 日（金）10：00～16：30

市民交流センター会議室

内容；10：00～12：00　　パネルトーク

（注；自治会・住民自治協議会の地域活動の表題で、パネラーとして当会代表の田倉さんが参加します）

１２：４５～１６：３０　基調講演　原田直樹（日本福祉大学学長補佐）

”福祉でまちづくり”に向けた福祉教育～30 年後の地域を描く～

グループワーク「30 年後の地域を描く」